

# 「第20回住まいのリフォームコンクール」総評

本コンクールも今年で20回目を迎える。応募件数は543件でほぼ例年並の件数である。

本年の応募作品の特徴は、シックハウス対策の進展に伴う健康志向により、自然素材を標榜するもの、とくに木の内装に提案が多く見られたこと、建築家の関与した作品が増えてきたこと、マンション系の応募案に賃貸住宅のリフォームが多くなってきたこと、すぐに取り外せる内装を計画するもの、SI型住宅を目指しスケルトンとインフィルを分離して計画するものが増えてきたこと、などである。バリアフリーは今や当然という状況である。

上位入賞ではマンション系が多かった。したがって、都市部 とくに首都圏のものが多く結果となった。

全体としては、どの部門もレベルが高くなっている。これは20回のコンクールの積み重ねが大きく寄与しているものと思われる。

住宅政策は、新築からリフォームに重点が移ってきた。最近はコンバージョン(他用途から住宅への転用)も増え、ジャーナリズムを賑わせている。リフォーム技術の新しい開発課題が生まれつつある。これらに応えるよう今後も一層のご支援を御願いして、本年度の総評と致します。

第20回住まいのリフォームコンクール審査委員会  
委員長 小原二郎

